

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	信州大学教育学部附属長野中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	新たな価値を創造できる資質・能力の育成

#### 《活動・研究の意義および活動報告》

##### 1 実施計画に至るまでの経緯

本校が目指す生徒の姿「豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者」（様々な社会変化を乗り越えた持続可能な社会を目指して、豊かな人生を創造していこうとするために、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な他者と協働しながら学べる生徒）を具現するためには、本校が捉える次の「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成することが必要であると考えた。

【新たな価値を創造できる資質・能力】各教科等で育成を目指す資質・能力を土台とした3つの資質・能力

ア 問題発見・解決能力

イ 批判的思考力

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力

これらの「新たな価値を創造できる資質・能力」の育成を目指すために、令和4年度までの研究を基にして、キャリア教育と STEAM 教育を視野に入れた、「キャリア×STEAM」の学びという“新たな学び”が必要であると考え、本校のこれまでの総合的な学習の時間のカリキュラムを基盤とした、「あさひのプロジェクト」という新しい探究的な学びを創造することとした。

##### 2 活動内容

(1)対象者 3学年全生徒(205名) ※令和5年9月より2学年全生徒(205名)も参加し、計410名で活動

(2)教科 総合的な学習の時間(探究学習) ※本校では「あさひのプロジェクト」として実施

##### (3)ねらい

地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学びを実践

##### (4)活動の具体

令和5年度は、研究1年次として、「新たな価値を創造できる資質・能力」の育成を目指すために、「キャリア×STEAM」の学びという“新たな学び”の軸となる次の三つの学習へのアプローチを構想した。

I:教科・アプローチ(教科等の学習) → 各教科等の本質に迫る学習

II:プル・アプローチ(教科横断型の学習) → 生徒の中に潜在する教科横断的な視点を引き出す学習

III:プッシュ・アプローチ(社会参画型の学習) → 実生活・実社会の諸課題を解決していく学習

その中で、III:プッシュ・アプローチの学習として、本校のこれまでの総合的な学習の時間のカリキュラムを基盤とした「あさひのプロジェクト」を設定した。

「あさひのプロジェクト」での活動を始めるにあたり、社会貢献をテーマに生徒の「やってみたい!」を具現化し、主体的に探究活動を始められるように、#(ハッシュタグ)によるチーム分けを行った。そこでは、実生活・実社会の諸課題に対して、生徒が「やりたい活動」と関わりそうな「職種」について、生徒の記述を基に教師が関連する#を決め出し、生徒が一番近いと思う#を選び、同じ#を選んだ生徒同士で集まり、活動の検討を繰り返し行う場を位置付けた。この位置付けによって、活動内容の見通しがより具体的になり、計36の活動が提案された。その後、生徒の提案者が立ち上げた36活動《プロジェクト型》と企業からの提案された5活動《ミッション型》の一覧を生徒

に提示し、参加したいチームを選択する場を設定したところ、25 活動《プロジェクト型》と4活動《ミッション型》の計 29 チームが編成された。

ハッシュタグの例

#地域貢献 #商品開発 #デザイン #情報発信 #環境問題 #エネルギー #教育 #食糧問題  
#イベント運営 #社会問題 #運輸 #スポーツ #ボランティア #ものづくり #テクノロジー

また、生徒が、地域や企業などの実社会に関わりながら課題解決に向けて探究を進めていくために、本校では、以下のような機会を年間行事に位置付けた。

【探究の日】	年間8回程度、校外活動などの探究を進めていく時間を確保するために、午後の日課をすべて総合的な学習の時間に充て、課題解決に取り組む時間と定めた日。
【ヒューマン・ウィーク】 (以後、H・Wと表記する)	本校が行っている総合的な学習の時間のカリキュラムの一つで、校外活動などの探究を進めていく時間を確保するために、7月の約一週間(令和5年度は4日間)をすべて総合的な学習の時間に充て、課題解決に取り組む時間と定めた日。
【東京研修旅行】 ※3学年のみ実施	「あさひのプロジェクト」の活動を充実させるために、H・W の後半2日間を東京研修旅行の時間に充て、東京にて企業訪問や実施調査する時間と定めた日。
【成果発表会】 ※探究の日に実施	年間3回程度、自分たちの活動の意義や目的を客観的に確認するために、探究の日を成果発表会に充て、異学年の生徒や保護者、地域・企業の方々と活動についての情報交換する時間と定めた日。



3 子どもたちへの効果

この1年間で「新たな価値を創造できる資質・能力」がどのくらい育成できたかを調べるために、アンケート調査を行い、昨年度との変化を比較した。質問項目「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」に対する回答では、肯定的意見の割合が、54.0%→65.9%に増加し、質問項目「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」に対する回答では、肯定的意見の割合が、73.0%→81.9%に増加した。以上のことから、本活動のねらいについて一定の成果を上げることができた。

一方で、「新たな価値を想像できる資質・能力」をどのように評価するかについて、アンケート調査項目の内容や評価のタイミングなど、十分に検討できていない部分もある。今後も、引き続き「あさひのプロジェクト」を実践し続け、よりよい学習を進めるべく尽力したい。

最後に、本校の「あさひのプロジェクト」の活動の様子をまとめた『「あさひのプロジェクト」成果報告書』を発刊しましたので、ご興味のある方は、本校代表メール ([nc\\_daihyo@shinshu-u.ac.jp](mailto:nc_daihyo@shinshu-u.ac.jp)) までご連絡ください。

